

1 単元名 セストボール

2 運動の特性 (機能的特性)

セストボールはコート内で攻守が入り交じり、ボールを手で操作したり、空いている場所に素早く動いてパスをつないだりして、ゴールにシュートして得点を競い合うことが楽しい運動である。

3 児童の実態 (学習の準備状況)

～省略～

4 実態の考察

(1) 運動の楽しさの体験状況について

本学級では、80%の児童が体を動かすことを楽しみに感じている。休み時間の様子を見ていると活発に運動している児童が多く見られる。一方で20%の児童が体を動かすことや運動すること自体に苦手意識を持っている。

ボール運動に関して、苦手意識をもっている児童の理由を見ると「ボールが怖い」や「上手くできないこと」などをあげており、ボール運動に対して恐怖心や不安を感じていることが考えられる。これは、昨年度に続き、今年度もコロナウィルス感染予防により、ボール運動に触れる機会が少なくなっていることによる影響が考えられる。また、休み時間の児童の様子を見てもボールを使って遊んでいるのは一部の児童だけであり、ボール運動の楽しさへの感じ方の差が広がっていると考えられる。そこで、本単元は、これまでボール運動の経験が少ない児童にとってボール運動の楽しさを十分に味わえることに重きを置いた手立てを講じていく。その際、苦手な児童も楽しむことのできるように、場やルールを考える必要があるだろう。

(2) 運動の楽しさを求める学び方の習得状況について

本学級の児童はこれまでの5年生での体育学習を経て、少しずつ個人のためを立って学習することができるようになってきている。課題を解決する際には、何度も練習したり、友達や教師から教えてもらったりすることを学んできている。

しかし、これまでチームで作戦を立てて取り組む学習の経験が少ないため、チームを意識しながらの個人のためを立て方はまだ身に付いていない。普段の学習の中では、積極的に話し合いの機会を取り入れており、児童たちの半数以上は話し合っただけで学習を進めることが得意と感じている。そこで、本単元では、チーム内での話し合いの時間を設定し、チームの中での役割を意識しながら学習を進めていくことができるような個人としてのめあてを立てられるようにしていく。

(3) 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

試しのゲームでは、ボール運動が得意な児童を中心に、半数以上の児童がパスがもらえるように空いている場所に走ったり、膝を使ったシュートをしたりする姿が見られた。しかし、「ボールを追いかわけて、団子状態になってしまう」「とりあえずボールを投げてしまう」「誰にパスをすればよいかかわからず、ずっとボールを持っている」という児童の姿も見られた。児童達の中には、試合中に1度もボールに触れることのできないという児童もいた。

実態調査での5mパスキャッチでは、ボールをキャッチする際に体を避けたり、目をつぶったりする児童が多く、ボールに対して恐怖心があることが考えられる。シュートに関しては、ほとんどの児童が胸や顔の前から両手でシュートをすることができていた。中には、ゴールに対して直線的なシュートでリング

に当ててしまったり、距離感が掴めずに奥に外してしまったりする児童もいた。

シュートやパスなどの動きのポイントを明確にした声かけや、シュートやパスを繰り返す時間の設定を行うことで、児童の技能を向上させ不安を取り除く必要があるだろう。

5 研究の視点と学習の手立て

(1) 市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点と手立て

視点1 課題を見付け解決できる学習過程の工夫と指導内容の明確化

<手立て>

○実態に合わせた単元設定（カリキュラムマネジメントの工夫）

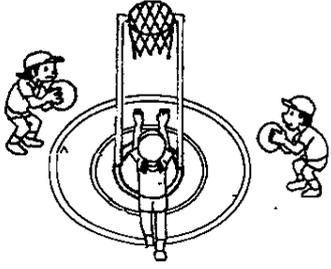
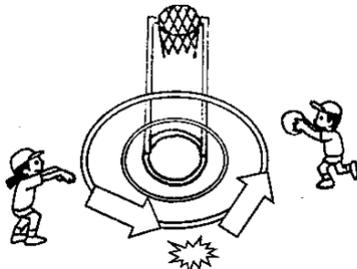
本学級の児童は3年時にハンドパスボール、4年時にサッカーの学習をしている。しかし、それらの学習では、攻守が入り交じるという経験は少なく、個人でねらったところに投げたり蹴ったりしてゴールにシュートすることに重きを置いた学習であった。これは新型コロナウイルス感染予防対策として制限が課されていたためであり、ゴール型のボール運動の特性を十分に経験することができなかった。

そこで、今年度はゴールへのシュートが360°どこからでもねらうことができ、バスケットボールに比べ、リングが大きく、高さが低いセストボールの単元を行う。バスケットボールよりもシュートが入る可能性が高いため、ボール運動が苦手な児童でもシュートを打つ楽しさや入った時の喜びを味わうことができると考える。また、試合の中で相手ゴール前へ攻め込む際には、ボールを持たないときの動きが重要であることに気付くようにする。今年度、これらのことを身に付けさせることで6年生の学習では、自分のチームや相手のチームの特徴に合わせて、ボールを持たないときの動きも含めた作戦を考えられるような姿を目指したい。

○身に付けさせたい動きの明確化

シュートタイムの設定

児童が楽しみながらゲームの中での動きを身に付けられるように、単元を通して一人一人が何度もシュートできる時間を設定する。苦手な子でも取り組めるような動きから取り入れ、学習が進むにつれてよりゲームの中の動きに近いものへと移行していく。

	①シュート&シュート	②パスキャッチシュート
行い方		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・3人ずつ取り組む。 ・ボールを1個ずつ持ち、1つのリングに向かって30秒間シュートを打ち続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム全員で行う。 ・パスをキャッチしてシュートする。 ・ローテーションしながら2分間で行う。
身に付けさせたい動き	<ul style="list-style-type: none"> ・膝を柔らかく使った山なりのシュートをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両手で相手を取りやすいパスする。 ・両手でボールをキャッチし、すぐにシュートをする。
教師の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・フワッとシュートできるよう声をかける。 ・「膝を曲げる」「山なりの軌道」「フワとしたボール」を意識させる掲示物をゴールに貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の少し前にパスを出すよう声をかける。 ・腕と体で三角形を作ってキャッチするように声をかける。 ・キャッチしたらゴールに体を向けるよう声をかける。

視点2 さらに運動が楽しくなるかかわり合いの工夫（人、ものとのかかわり合い）

<手立て>

○楽しさを味わうためのルールや場

試しのゲームや実態調査の結果から、児童がセストボールの楽しさ、さらにはボール運動の楽しさを十分に味わうためにルールや場の工夫が必要であると考え。そこで最初のルールに加え、試合を通して児童とルール作りを行い、随時ルールを更新していく。その際、児童はボール運動の経験が少ないことを考慮して、教師側から一方的に提案するのではなく児童が必要感を持っていることに対して工夫をしていけるように、注意しながら決めていきたい。

最初のルール

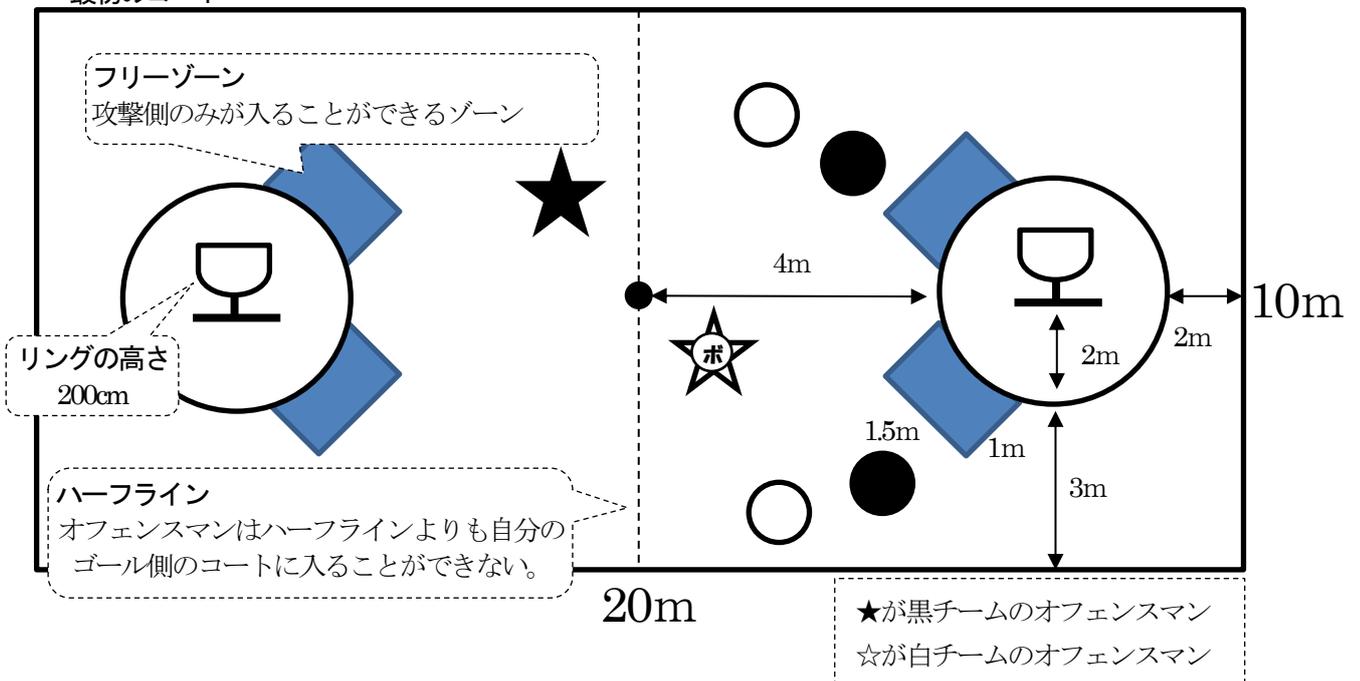
- ・1チーム5人（1チームだけ6人）
- ・試合人数は3人对3人 前後半でメンバーを交代し、1試合で全員が出られるようにする。
- ・前半4分 インターバル2分 後半4分
- ・ボールをラインから出してしまったら、そのライン上から相手のパスで始める。
- ・ゴールを囲む円（半径2m）には、攻撃側も守備側も入ることはできない。
- ・ボールを持っている人の体に触れる、ボールをつかむ、ボールを叩くなどしてはいけない。
- ・オフenseマンルール

試合を行う3人の内、1人をオフenseマンにする。オフenseマンはハーフラインよりも自分のゴール側のコートに入ることができない。

追加していくルールの例（児童と話し合って決めていく）

- ・初得点ボーナスルールにする…最初の得点は3点 2回目以降は1点
- ・フリーゾーンの位置や数を選ぶことができる
- ・リングの高さを変える（200cm→220cm）

最初のコート



6 単元の目標

- (1) セストボールの行い方を知るとともに、パスやシュートなどの基本的なボール操作とボールを持たない時の動きによって、簡単なルールでの試合を行うことができるようにする。 (知識及び技能)
- (2) 自分に合っためあてを持ち、ゴールへ攻め込む時の動き方を考え、自分の考えを友達に伝えることができるようにする。 (思考力, 判断力, 表現力等)
- (3) セストボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 (学びに向かう力, 人間性等)

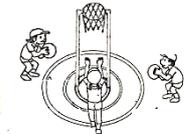
7 評価規準

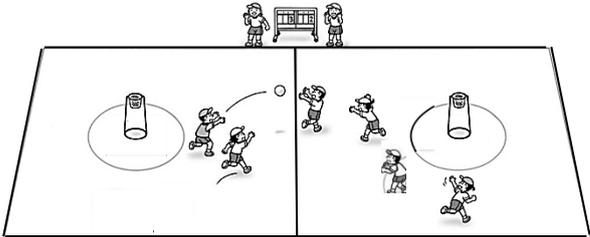
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	次の運動の行い方を理解しているとともに、その技能を身に付け、簡易化されたゲームをしている。 ・ゴール型では、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをしている。	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりしているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動に積極的に取り組もうとし、ルールを守り助け合って運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。
学習活動に即した評価規準	①セストボールの行い方を知っている。 ②ボールを持ったときにゴールに体を向けることができる。 ③味方にボールをパスしたり、ゴールにシュートしたりすることができる。 ④ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動することができる。	①自分のチームの特徴に応じた簡単な動き方を考えている。 ②ゴール前に攻め込む時の動き方の工夫を友達に伝えている。	①セストボールに積極的に取り組もうとしている。 ②ルールを守り友達と助け合って練習や試合に取り組んでいる。 ③勝敗を受け入れ、友達の考えや取組を認めようとしている。 ④場や用具の安全に気を付けている。

8 学習の道すじと評価計画

	1	2	3	4	5	6 (本時)	7
学習のねらい	学習のすすめ方を知り、見通しを持たせる	シュートの入る楽しさと、パスをつないでゴールへ攻め込む楽しさを味わわせる					
0 ↓ 45	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・場や用具の準備や片付けの仕方 ・安全について ・試しのゲーム	シュートタイム					
		簡単なルールでセストボールの試合を楽しむ					
		(総当たり戦)			(対抗戦)		まとめ
知・技		①	②			③	④
思・判・表				①	②		
態度	④	②	①	③			

9 指導計画

	学習内容と活動	教師の指導・支援○・評価◆
はじめ	<p>オリエンテーションをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや道すじを理解し、学習の進め方について見通しを持つ。 ○セストボールのルールやマナーについて理解する。 ○用具の使い方や、場作りの仕方、安全への配慮について理解する。 ○学習カードの使い方、ギガタブの使い方、めあての立て方について理解する。 ○つながる運動の行い方を理解する。 ○試しのゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しを持てるように、映像資料を用いて説明する。 ○ルールやマナーについては、掲示物を使って説明するとともに、実際に見せたり児童にやらせたりして説明する。 ○作戦ボードの使い方を説明する。 ◆場や用具の安全に気を付けようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度④】
なか	<p>1 チームごとに必要な用具を準備し、場づくりを行う。</p> <p>2 チームごとに準備運動を行い、シュートタイムを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シュート&シュート  <ul style="list-style-type: none"> ○パスキャッチシュート  <p>3 本時の課題と進め方を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>簡単なルールでセストボールを楽しむ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールの確認をする。 前時に児童から挙げられた改善点や、教師から見た改善点を基に、本時で追加・修正するルールを確認する。 ・めあての確認をする。 <p>【予想されるめあて】</p> <p>単元の前半</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シュートをして得点を決める。 ・上手にパスをする。 ・一生懸命走る。 ・声を出す。 <p>単元の後半</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斜め前にパスする。 ・相手のいないところに走る。 ・膝を使ってシュートをする。 ・フリーゾーンでボールをもらう。 ・相手を振り切ってパスをもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○リングは一人で運ぶのではなく、友達と協力して安全に運ぶように声をかける。 ○児童の様子を見ながら、手首や足首、肩周りなどのストレッチを重点的に行うよう声をかける。 ○基本的なボール操作が苦手な児童には、投げ方や受け方について助言したり、示範したりする。 ○それぞれの動きのポイントなどを掲示物として用意しておく。 ○ボールをふわっと山なりに打つことができるように、膝の柔らかい使い方や力加減について助言する。 ○身に付けさせたい動きができていない児童を積極的に称賛する。 <ul style="list-style-type: none"> ○前時の授業のまとめや振り返りの内容から、追加・修正するルールを教師が確認する。 ○試合中にルール確認によって試合が止まることの無いように、掲示物を使って確認する。 ○対戦相手は事前に決めておく。 ○自分のめあてを何人かに発表させて、自分がどう動くべきかが明確になっているかどうか確認する。 ○自分のめあてを立てるのが苦手な児童には、簡単な例やこれまでの学習を掲示物として用意し、それらを参考にしよう声をかける。 <ul style="list-style-type: none"> ◆自分のチームの特徴に応じた簡単な動き方を考えている。 【思考・判断・表現①】 ◆ゴール前に攻め込む時の動き方の工夫を友達に伝えている。 【思考・判断・表現②】

<p>4 ゲームを行う。 【ゲームの流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1試合目 10分 (前半4分—準備・交代2分—後半4分) ・ 作戦タイム 4分 ・ 2試合目 10分 (前半4分—準備・交代2分—後半4分)  <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ めあては達成できたか。 ・ 誰のどんな動きが良かったか。 <p>6 後片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○シュートを決めることができた児童を、積極的に称賛する。 ○パスをしたり、シュートをしたりすることが苦手な児童には、ボールを持ったときにゴールに体を向けるように声をかける。 ○動き方がわからない児童には、空いている場所を指し示したり、一緒に動いたりする。 ○友達の動きを褒めたり、友達にアドバイスしている児童がいれば積極的に称賛する。 ◆セストボールの行い方を知っている。 【知識・技能①】 ◆ボールを持ったときにゴールに体を向けることができる。 【知識・技能②】 ◆味方にボールをパスしたり、ゴールにシュートしたりすることができる。 【知識・技能③】 ◆ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動することができる。 【知識・技能④】 ◆セストボールに積極的に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度①】 ◆ルールを守り友達と助け合って練習や試合に取り組んでいる。 【主体的に学習に取り組む態度②】 ◆勝敗を受け入れ、友達の考えや取組を認めようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度③】 <ul style="list-style-type: none"> ○グループで試合の振り返りを行う。 ○シュートを打つことができたかを確認し、できた児童を称賛する。 ○児童が発表した友達のよいところやよい動きを掲示物に記入し、次時の見通しを持たせる。 ○試合を通して困ったことがないか確認する。あれば、どのようにルールを変えていけばよいか考えさせる。 ○ルールの追加や修正を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○安全に気を付けて、協力して片付けるように声をかける。
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめを行う。 ・ セストボールの行い方を理解するとともに、シュートやパス、ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動するなどの動きによって、ゲームをすることができたか ・ 自分のチームの特徴に応じた簡単な動き方を考えるとともに、ゴールへ攻め込むときの動き方の工夫を友達に伝えることはできたか。 ・ セストボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合ってゲームをしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができたか。